

+++++

いのはな便り  
肺がんCT検診認定機構メールマガジン  
第15号(2015年6月号)

+++++

書評：「過剰診断 健康診断があなたを病気にする」  
H・ギルバート・ウエルチ著、北澤京子訳  
筑摩書房 2014年12月 ¥1700+税

放射線医学総合研究所名誉研究員  
飯沼 武(医学物理士)

#### 【はじめに】

筆者は最近、上記のような本を見つけました。このようなタイトルでちょっとびっくりしました。また、表紙の帯には、近藤 誠氏の一言が載っております。この本のもとの題は“Overdiagnosed”で、米国で2011年に発行されております。

ご存知のように、過剰診断は英語の Overdiagnosis(OD)の和訳であり、近年とくに、がん検診において問題になっていることであります。このような一般向けの本が米国で出版されていることに驚きました。また、私たちが研究しているCTによる肺癌検診においても、

ODが大きな話題になっていることは皆様もご存じだと思います。

そこで、この本を紹介し、皆でODについて考えてみたいと思います。是非、この本をお読みくださることをお勧めします。

#### 【本書の概要】

本書は序論、1-10章、結論から構成されております。それぞれのタイトルがとても刺激的なので、紹介します。序論：診断したくてたまらない、1章：過剰診断の誕生、血圧が高いと患者になる、2章：ルールを変える、糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症の数値はどのようにして変わったのか、3章：もっとよく見る、胆石、膝軟骨損傷、椎間板ヘルニア、腹部大動脈瘤、血栓の画像診断、4章：前立腺がんのスクリーニング、5章：その他のがんのスクリーニング、6章：乳がんのスクリーニング、7章：遺伝子検査、DNAの異常と病気の関係、8章：事実を知ろう、9章：システムを知ろう、10章：全体像を知ろう、結論：診断を

減らして健康を追求しようの 12 項目にわたっています。

各章のタイトルから、皆様にはおわかりとは思いますが、簡単に概要を述べます。

まず、第 1 章と第 2 章では、過剰診断の発生源とも言うべき、高血圧や糖尿病などの数値によって基準が決められている疾患について述べています。この基準となる数値を低くすることにより、大量の低いリスクの患者が検出され、これらの患者の大部分が将来にも問題をおこさず、むしろ、過剰診断による治療を受けることになって、その害の方が大きいと主張しております。第 3 章では、私たち放射線医学者にとって関係の深い画像診断による過剰診断をとりあげております。むしろ、見えすぎることによって微小な異常を発見しすぎているのではないかというのが著者の考えです。

第 4 章、第 5 章、第 6 章では、我々に関連の多いがん検診における過剰診断を取り上げています。とくに、詳しく述べているのが前立腺がんと乳癌であります。この二つは過去の文献からそれぞれの罹患数と死亡数の間で大きな解離があり、明らかに過剰診断が多量に発生している可能性が大きいとしております。その他、甲状腺がん、メラノーマ、肺がんなどが問題になっています。過剰診断が少ないがん検診としては大腸がんと子宮頸がんをあげています。

第 7 章では、近年大きくクローズアップされてきた遺伝子検査について述べています。著者の主張によると、浸透率が 100%である遺伝性疾患は嚢胞性線維症やハンチントン病などに限られ、その他の多くの疾患は浸透率が低いもので、これらは遺伝子に異常があるから病気とは言えないと述べ、がんなどに対する遺伝子検査の問題点を指摘しています。

第 8 章、9 章、10 章では、がんのスクリーニング検査に代表される早期発見が必ずしもそのがんの死亡減少に寄与せず、むしろ過剰診断を多く発生させ、受診者に害をもたらす可能性を論じております。そして、結論では、健康を維持するためには、むしろ診断を減らすことを勧めております。とくに、早期診断の有効性(死亡減少効果)を示す確実な方法はランダム化試験(RCT)だけであると繰り返し強調しています。

### 【筆者の印象】

この本について、真っ先に思い出したのが近藤 誠氏でした。近藤氏はがん検診に関して、「がんもどき」説を取り上げ、がん検診で発見される早期がんのほとんどすべてがほっておいてもよいもので、それを「がんもどき」と名付けましたね。この本にも近藤氏が推薦文を寄稿していることも理解できます。一方で、私は近藤氏の主張することはあまりに極端すぎて信用できませんでした。

しかし、今回のウエルチ氏の著書は一般向けの本とはいえ、科学的な文献を多く引用し、エビデンスに基づくものです。少し、難しいかもしれませんが、

専門家である会員諸氏には十分に理解できる内容です。その主張は我々、健康診断に携わっている者にとって重要な警告であると感じます。とくに、私たちに関係の深いがん検診が過剰診断の対象になっていることが本書の特徴ですが、この問題は世界的に避けて通れない課題となりました。

私は、本書でも述べられている前立腺がん、乳がん、甲状腺がんなどで OD が多いことは確かだと思いますが、これはがんの種類によって異なると思っております。私たちに最も関連の深い肺がんに関しても本書では、CT による肺がん検診が OD をもたらしていると述べておりますが、著者は NLST の RCT の結果が出る前の話なので、その後、どのように考えを変えたのか知りたいです。何故なら、NLST は著者らが強調している RCT ですから。

CT 肺がん検診では OD はある程度存在するとしても、死亡率減少効果があることは確実だと思います。

最後に、我々、がん検診の関係者にとって、OD が課題であることは明らかであります。今後、すべてのがん検診に関して、OD がどのくらいの割合で存在するか明らかにする必要があります。また、OD を減らすためのスクリーニング検査の基準を決めなくてはならないと考えます。とくに、我々が関与している CT 肺がん検診においては I 期の早期肺がんにおける診断基準と OD の関連を明らかにし、スクリーニング検査の感度、特異度と OD の割合との定量的な関係を調べていただきたいと願っております。

とくに、OD との関連では、女性の初回検診での早期肺癌の中に含まれている可能性が高いように感じております。皆様のご批判をお願いします。

---

【 本機構主催の講習会などのお知らせ 】

◆第 14 回 肺がん CT 検診認定技師 定期講習会

- ・日時：2015 年 7 月 18 日（土曜）7 月 19 日（日曜）
- ・場所：滋賀医科大学

詳細はHPでご確認ください。

<http://www.ct-kenshin-nintei.jp/gishi/workshop/index.html>

◆第7回 肺がん CT 検診認定技師 更新講習会

・日時：2015年7月18日（土曜）

・場所：滋賀医科大学

詳細はHPでご確認ください。

<http://www.ct-kensin-nintei.jp/gishi/koushin/kousyukai/index.html>

◆第9回 認定医師更新講習会 兼 認定医師新規認定講習会

・日時：2015年8月30日(日曜)

・場所：秋葉原（東京都） 富士ソフト アキバプラザ 5階 アキバホール

詳細はHPでご確認ください。

<http://www.ct-kensin-nintei.jp/ishi/workshop/index.html>

※お申込みは6/15(月)より開始いたします。

\*\*\*\*\*

関連会議のご案内

\*\*\*\*\*

—————【 第41回肺癌診断会のお知らせ 】—————

1. テーマ：マクロの視点とミクロの眼
2. 世話人：黒崎敦子（公益財団法人結核予防会 複十字病院放射線診断科）
3. 日時：平成27年6月25日(木)～27日(土)
4. 会場：りんどう湖ロイヤルホテル

〒325-0302 栃木県那須郡那須町高久丙 4449-2

5. 申込方法：下記のウェブサイトからの事前参加登録受付中

<http://lcd.kenkyuukai.jp/>

6. 問合せ先：① 第 41 回肺癌診断会運営事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-35-3 本郷 UC ビル 4F

株式会社コンベンションアカデミア内

TEL:03-5805-5261 E-mail: [LCD41@coac.co.jp](mailto:LCD41@coac.co.jp)

② 実行委員長 複十字病院放射線技術科 花井耕造

TEL:042-491-4111 E-mail: [hanaik@fukujuji.org](mailto:hanaik@fukujuji.org)

※第 41 回肺癌診断会への参加は肺がん CT 検診認定技師更新講習会受講の 5 単位と

なります。

※内容についてはHPでご確認ください。

---

【日本CT検診学会 2015年夏季セミナー】

---

第 19 回読影セミナー、第 14 回肺気腫セミナー、第 9 回技術セミナー

当機構の中心母体である日本CT検診学会が主催する夏季セミナーです。

認定医師、認定技師の更新のための単位も取得できますのでぜひご参加ください。

また、未入会のかたも是非この際にご入会をお勧めします。

1. 日時：2015年7月25日
2. 会場：主婦会館プラザエフ  
<http://plaza-f.or.jp/index2/access/>
3. 代表世話人：柿沼龍太郎
4. 詳細については下記HPでご確認ください。  
[http://www.jscts.org/index.php?page=seminar\\_index](http://www.jscts.org/index.php?page=seminar_index)

—————【第18回肺がん画像診断セミナー in DAIBA】—————

1. 日時：2015年9月20日 10時～ 2015年9月21日 13時
2. 場所：ホテルグランパシフィック LE DAIBA（東京、お台場）
3. 世話人：山田耕三（神奈川県立がんセンター）
4. 内容:プログラムはこちらをご覧ください。  
<http://odaiba-haiganseniner.kenkyuukai.jp/special/?id=10352>

本機構の副代表理事の江口研二先生が責任者を務める、肺がん画像診断の勉強会です。

少人数に分かれて、エキスパートと膝を突き合わせて議論ができる数少ない場所ですので、奮ってご参加ください。

現在HPから参加受付中です。

